

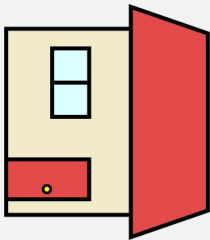
TADESKA

1 de julio de 2017

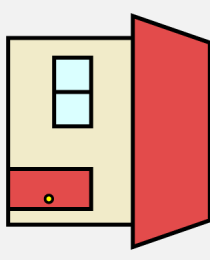
ELABORACIÓN DE UNIDADES DIDÁCTICAS
DE APROXIMADAMENTE 20 MINUTOS
UTILIZANDO “UN MODELO DE
CONTENIDOS PARA UN MODELO DE
ACTUACIÓN” (GIDE, 2015)
A TRAVÉS DEL ENFOQUE POR TAREAS

TEMA 11 / LA CASA

立命館大学 横山友里



テーマ11 家



- このテーマを学習した後にできるようにすること
- 対人モード：住居についての情報を求める・与える、部屋、家具、電化製品がどこにあるか示す、人の住居を訪ねた時に反応する
- 解釈モード：賃貸住宅の簡単な情報を読んで理解する、アパート、家具、家庭用品等の簡単な広告を読んで理解する
- 提示モード：家の簡単な描写を発表する

TBLTとは

- TBLT (Task-Based Language Teaching)
- Enfoque por tareas
- El enfoque por tareas es la propuesta de un programa de aprendizaje de lengua cuyas unidades consisten en actividades de uso de la lengua, y no en estructuras sintácticas (como hacían los métodos audiolinguales) o en nociones y funciones (como hacían los programas nociofuncionales). Su objetivo es fomentar el aprendizaje mediante el uso real de la lengua en el aula y no solo mediante la manipulación de unidades de sus diversos niveles de descripción; de ese modo se postula que los procesos de aprendizaje incluirán necesariamente procesos de comunicación.

めやすの目指すもの (P.93)

- 1年生の最初の動機付けを維持する (文化を知りたいという関心)
- スペイン語学習は、知識の受容にとどまらず、積極的なコミュニケーション手段である
- スペイン語の授業を実際のスペイン語話者との間に起こりうるやり取りの練習と考える
- 文化の違いを豊かさであると考え
- 適切な学習ストラテジーや情報通信技術の知識を借りて、認知能力およびメタ認知能力を育成する様々な学習方法を身につける
- グループの協働作業やインターネットを介したやり取りを通じて、人と関わる様々な方法を体験する

TBLTの目指すもの（松村, 2017）

- 現実的に機能する第二言語使用者を育てる
- 真に自由で自発的な言語使用の場を学習者に提供
- 学習者自らが積極的に情報を整理、統合、分析するなどして主体的な判断を行う機会を授業の中に作り出していくこと

TBLTの認識転換（松村，2017）

	還元主義的な認識	分散認知的・エコロジカルな認識
第二言語	手持ちの荷物に貼られる新しいラベル 	環境を探索し、世界を構築していくためのアンテナ（触角） 
第二言語能力	貯蔵庫に蓄えられた資源のストック 	相互にリンクされた節点で構成されたネットワーク 
第二言語の発達	舗道に石を敷き詰めていく 	雪玉が転がりながら大きくなっていく 

TBLTとは

- タスクの条件 (Ellis and Shintani, 2014)
 1. 意味のやり取り
 2. ギャップ
 3. 現有リソースの自由な活用
 4. 成果

タスクの条件

(Ellis and Shintani, 2014; 松村, 2017)

1. **意味のやり取り**：モデルの模倣や指定された言語形式の操作・活用ではなく、目的に応じたメッセージ内容（意味）の伝達や理解が要求される。
2. **ギャップ**：課題達成のために埋めなければならぬ何らかの「ギャップ」（情報の欠落や差異、意見の相違、解決すべき問題状況など）が存在する。
3. **現有リソースの自由な活用**：用いたり注意を向けたりする形式を事前に指定されることなく、学習者はその時点で自らの持つ言語的・非言語的なリソース (resources) を自由に用いて活動に取り組む。
4. **成果**：言語形式の理解や表出が正しくでき示す (display) のではない、課題の内容に関連した成果が設定されており、学習者はその達成を目指して活動する。

TBLTの例

- **学校改革**
- **学校をよりよくなる方策を1人につき4つ考え
た後、3人のグループで話し合って、最終的に
最も重要と思われる4つを優先順位つきで決定
し、学校長にそれらを伝える手紙を書く。**

TBLTの実践例

- 学校改革
 - 学校をよりよくする方策を1人につき4つ考えた後、3人のグループで話し合つて、最終的に最も重要と思われる4つを優先順位つきで決定し、学校長にそれらを伝える手紙を書く。
 - 意味のやり取り：学校の改善策をまとめる＝情報と意見のやり取り
 - ギャップ：個人間の意見の相違
 - 現有リソースの自由な活用：最終的な合意に至るまで、学習者は用いる表現を指定・制限されることなく、必要な表現を自らの現有リソースの中から選んで用いる
 - 成果：順位をつけられた内容、学校長宛の手紙

TBLTの授業例（松村, 2017）

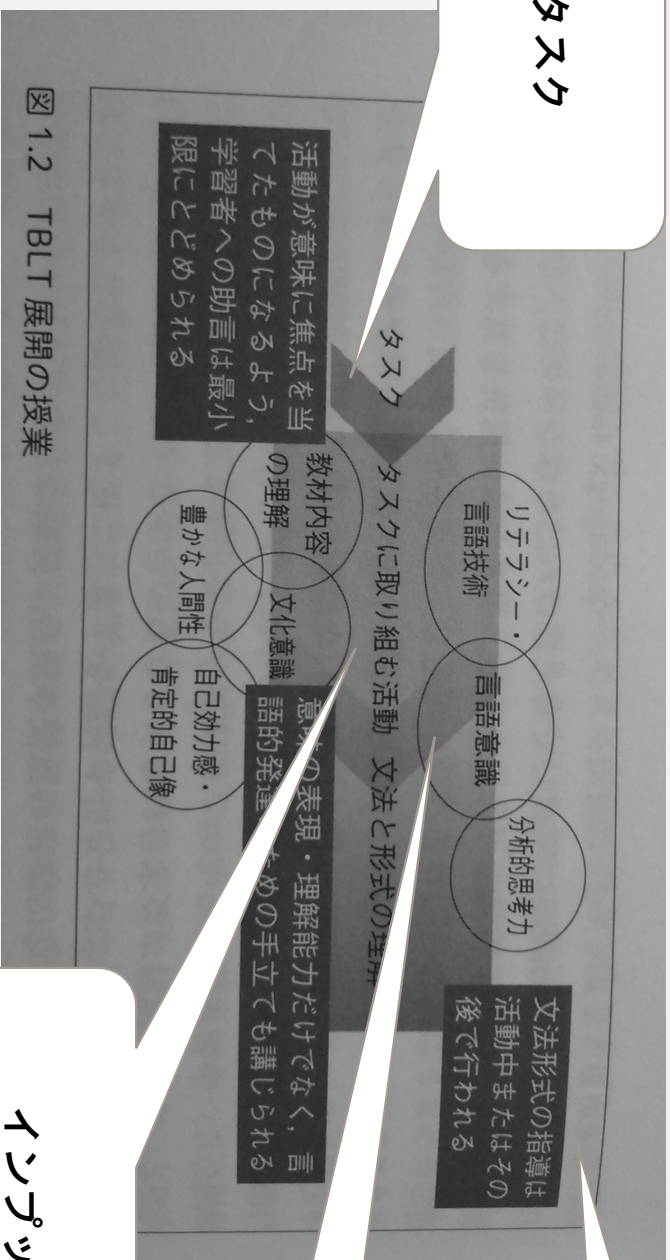
プレタスク

活動後の文法事項

フォーカス・オン・
フォーーム

インプット

図 1.2 TBLT 展開の授業



TBLTの授業例（松村, 2017）

- フリタスク：手順や内容の説明、背景スキーマの喚起、教師が学習者と実演、過去の活動の動画、音声などを見る（活動の手順を学習者によく理解させた上で活動への興味と意欲を喚起すること）
- インプット：理解の鍵あるいは学習上のポイントを詳細に説明したり、特定の言語特性が現れる頻度を高めたりする、相互作用仮説（学習者同士でもOK）
- フォーカス・オン・フォーム：意味のあるやり取りの間に学習者の注意が言語形式に向けられ、気づきを通して言語体系の再構成が促される←訂正的フィードバックが行われるときが最も効果的
- 活動後の文法指導：学習者が自発的なコミュニケーションに従事している時はその流れを阻害せず、干渉しないほうが良い場合がある。活動中は、適時簡潔なフィードバックを与える、与えつつ、学習者の取り組みを見て回り、文法指導で取り上げる表現例を収集する。

では実際にやってみましょう！

今回のタスクの解説

- 絵複製タスク
- 指示
- 一方向
- 正解到達型

- 難易度の調整
- 本当の自分の家で行うか用意された間取り図で行うか（正答の有無）
- 活動の制限時間の有無
- 情報の流れ（双方向か一方向か）

参考文献

- Ellis, R., & Shintani, N. (2014). *Exploring language pedagogy through second language acquisition research*. London: Routledge.
- 松村昌紀編 (2017). 『タスク・ベースの英語指導—TBLTの理解と実践』 東京:大修館書店.